

「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No.4

令和3年6月30日発行

校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子

徳 心豊かで思いやりのある子

体 進んでやりぬくたくましい子

『からまつ』と 負の能力

太田 等

学校だよりのタイトル『からまつ』は、昭和33年第7代校長が校章を考案した際、子ども達に対する願いをしたためた言葉です。それは「～大空に向かってまっすぐ伸びる『からまつ』のように 北国の厳しい自然に耐え どっしりと大地に根をおろし すくすくと育ってほしい」というものです。



まんえん防止等重点措置期間が7月11日までとなり、コロナの収束が見えにくい状況が、まだまだ続いています。

ある精神科医が著した書に「コロナ禍の社会は未知の経験の連続で『白か黒』で割り切れないことばかり。このような状況において人々が健全な心をもって生きるために大事なことは“ちゅうぶらりんの状態を持ちこたえる負の能力（ネガティブ・ケイパビリティ）”を持つこと」とありました。

「負」（ネガティブ）は、一般的に消極的・否定的を。「能力」は、物事を迅速に解決する積極的（ポジティブ）を表します。しかし、ここの「負の能力」は、答えの出せない難しい問題を拙速に解決しようとするものではなく、結論を急がず、いったん棚に上げ、より価値的な深い理解に至るまで、じっくりと模索し、“ちゅうぶらりんの状態”を持ちこたえる耐性を表します。表面では分からない内面の力、精神力、賢い人格を表します。筆者は次のように述べます。

人間は、そうした曖昧な状態に耐えるのが苦手です。『白か黒か』という両極端の二項対立で、はっきりした端的な答えを求めたくなる。世の中には今、腰を据えてじっくり考える前に吐かれる、とげとげしい言説がはびこっている。しかし、『負の能力』はそれを回避する。

『からまつ』には、時代がいかに未知なる方向にいこうとも、深く思索し、自他の生命・人格を尊重し、新たな価値を創造する逞しい人間の姿があります。そういう意味ではここでの「負の能力」と『からまつ』は一致します。

今後ギガスクール構想の推進により、デジタル化が一層進んでいきます。便利さが増していきます。しかし、それは目的ではなく手段です。忘れてはならないことは、より価値ある生き方を考える深い思考を培っていくことです。言われるから行うのではなく、自分の心と頭によって物事の善悪を考え、自分の判断で行動できるようにすることが目的です。この自主・自律性が確かな未来を創造し、コロナ禍にあっても大地に根を張っていくが如くに、風雪があっても乱れることのない人格を築いていきます。

1学期終了までいよいよ後21日となりました。『からまつ』に込められた思いを胸に、子ども達にとってよりよい学期末となるよう、教職員一同、最善を尽くしてまいります。